

乳幼児の父親についての調査 ～ 東アジア4都市比較 ～

東京・ソウル・北京・上海の父親調査

ベネッセ次世代育成研究所では、日本の父親を対象に、
社会環境の変化が乳幼児の父親の子育てに与える影響などを調査しています。
この度、東アジアの4都市の父親を対象に、父親の子育ての実態や家族との関わり、
育児観、ワークライフバランスなどについて比較調査しました。
このレポートでは、各都市の特徴的な結果を抜粋してご紹介します。



● 調査監修

汐見 稔幸 (白梅学園大学学長)
大日向 雅美 (恵泉女学園大学大学院教授)
一見 真理子 (国立教育政策研究所総括研究官)
小林 登 (ベネッセ次世代育成研究所所長・東京大学名誉教授・国立小児病院名誉院長)

● 分析

ベネッセ次世代育成研究所

*所属・肩書きは、2010年6月現在のものです。

発行日：2010年6月9日

株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所

発行人：新井健一 編集人：後藤憲子

調査担当：高岡純子・田村徳子・持田聖子

デザイン：古関敦子 表紙イラスト：中村ヒロユキ

〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

Tel: 03(3295)0294 (10～17時 土日祝日と12～13時除く)

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/> (このレポートがダウンロードできます)

Benesse® 次世代育成研究所

調査概要

***調査テーマ** 乳幼児の父親の子育てに関する意識と実態についての東アジア4都市（東京・ソウル・北京・上海）の比較

***調査方法** インターネット調査

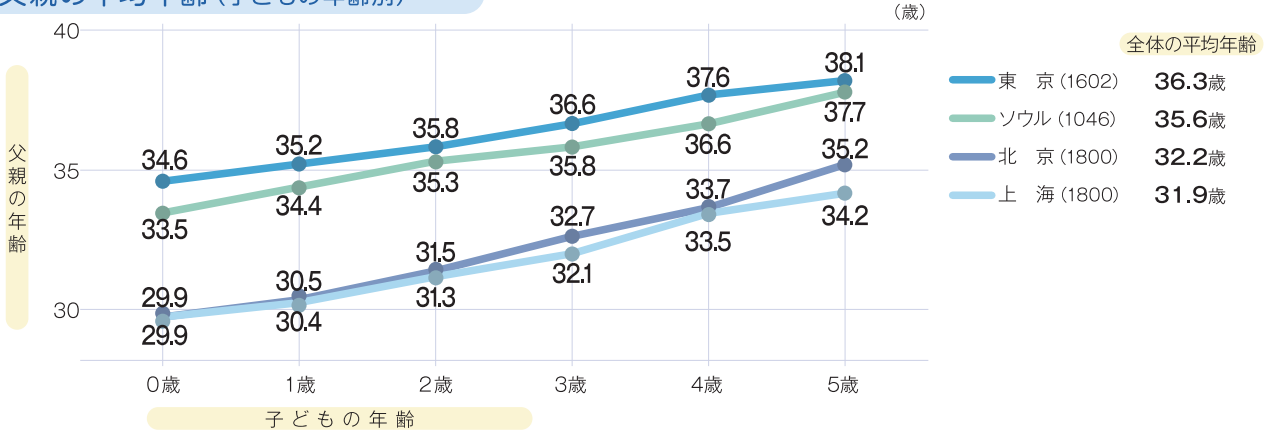
***調査項目** 子どもと過ごす時間（平日・休日）／家事・育児の実態／子育て意識・期待・不安／ワークライフバランス／地域での活動／生活満足度／配偶者との関わり／祖父母との関わり

***調査時期・対象・地域**

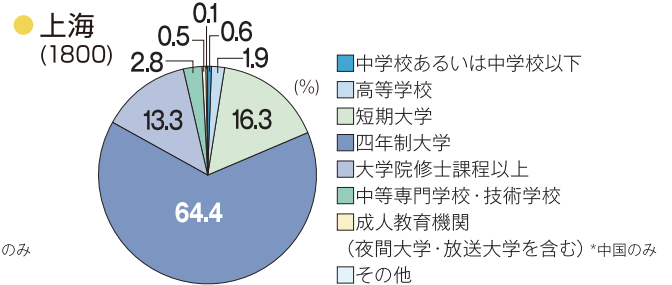
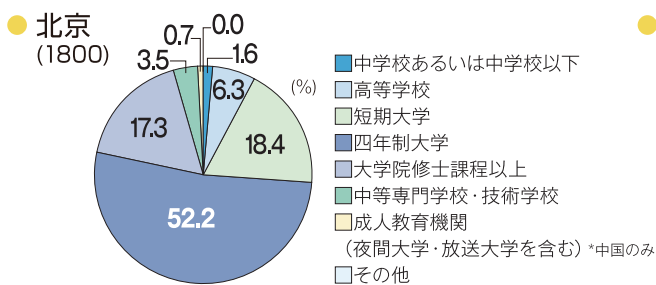
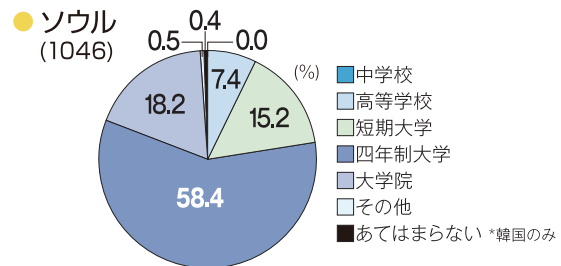
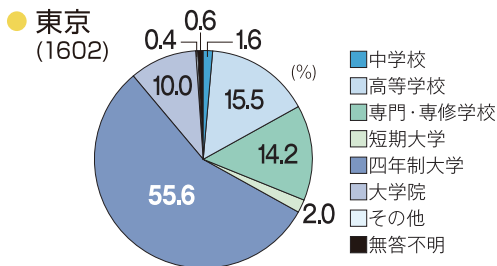
	東京	ソウル	北京	上海
調査時期	2009年8月	2010年3月	2010年3月	2010年3月
調査対象	0～5歳の乳幼児を持つ父親（*中国は、第一子）			
	1,602名	1,046名	1,800名	1,800名
	0歳 288	0歳 165	0歳 171	0歳 171
	1歳 270	1歳 171	1歳 171	1歳 171
	2歳 257	2歳 179	2歳 179	2歳 179
	3歳 273	3歳 182	3歳 182	3歳 182
	4歳 267	4歳 176	4歳 176	4歳 176
	5歳 247	5歳 173	5歳 173	5歳 173
調査地域	東京都	ソウル市・京畿道の8市	北京市	上海市

基本属性

***父親の平均年齢（子どもの年齢別）**

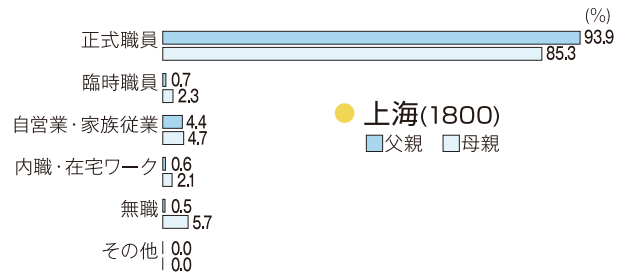
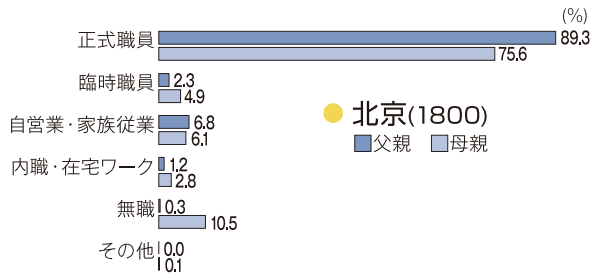
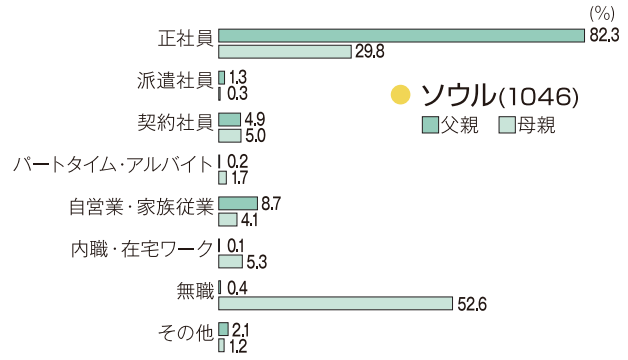
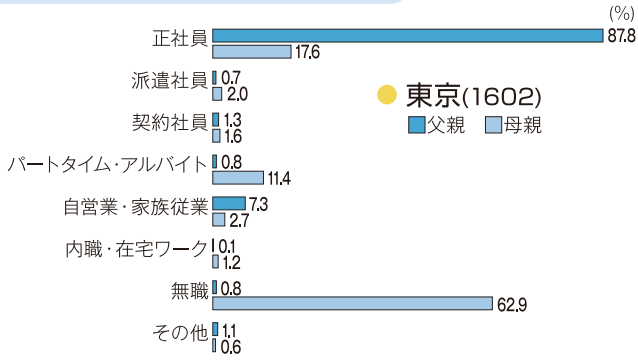


***父親の最終学歴**

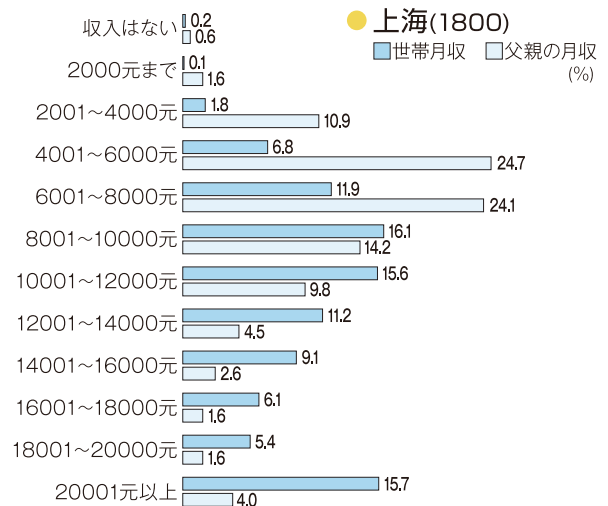
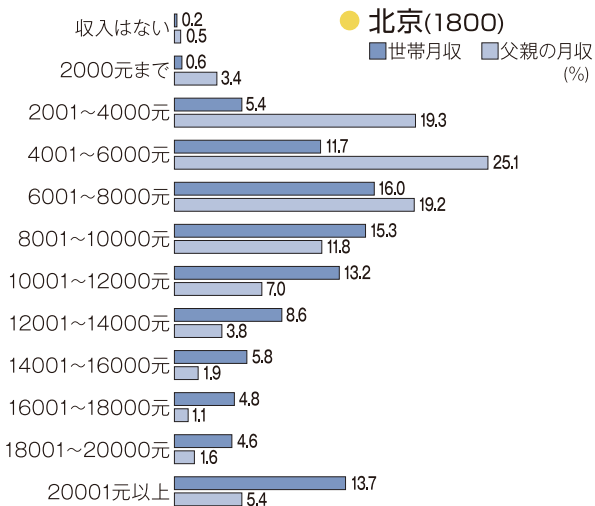
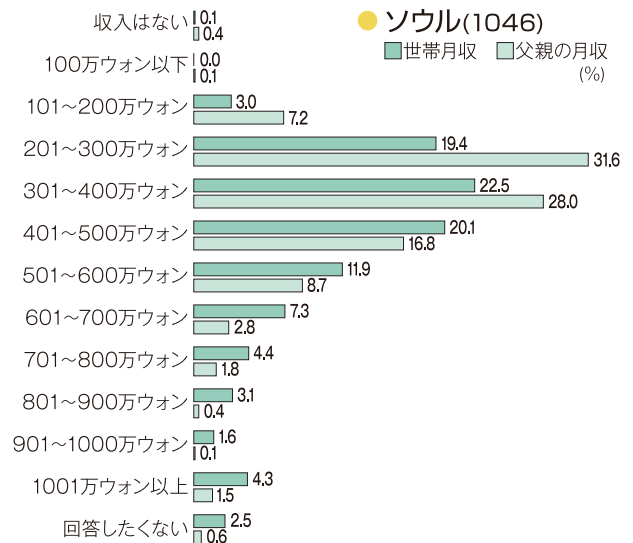
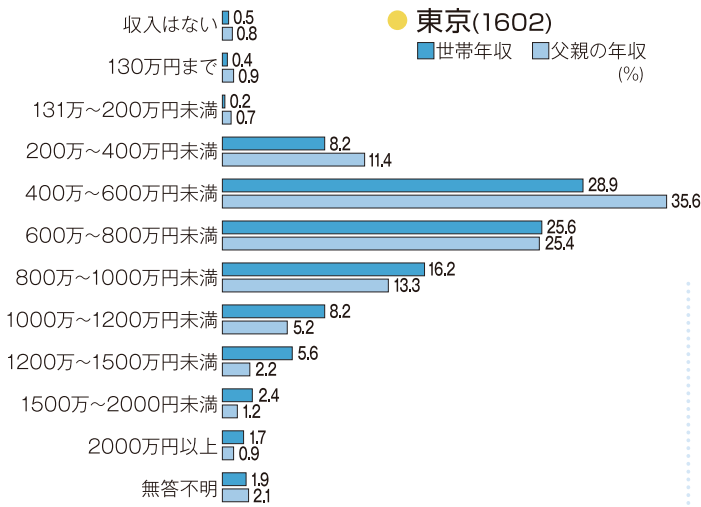


基本属性

*現在の職業（父親・母親）



*世帯収入・父親の収入（東京は年収/ソウル・北京・上海は月収）



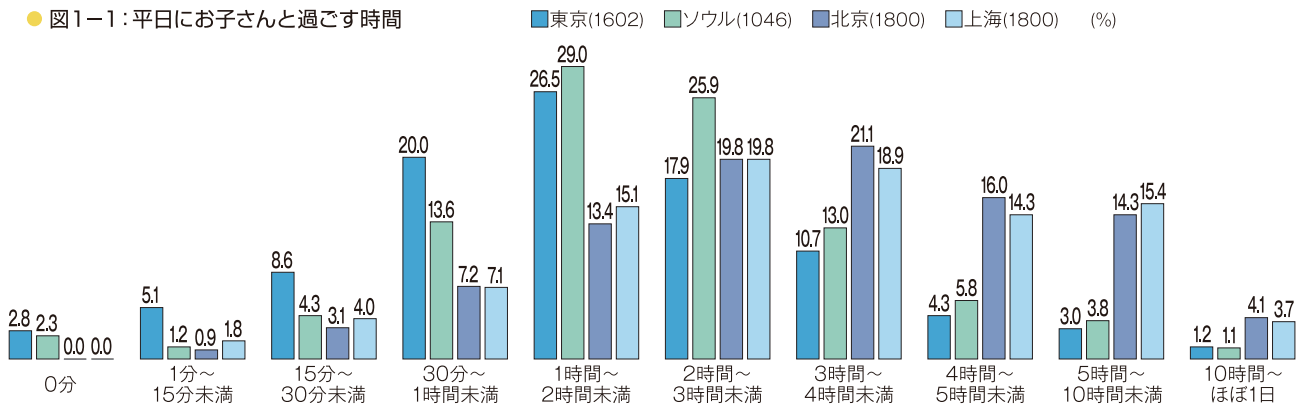
1 子どもとの関わり

東京の父親は、「平日に子どもと一緒に過ごす時間」が最も短く、「休日に子どもと一緒に過ごす時間」が最も長い傾向。

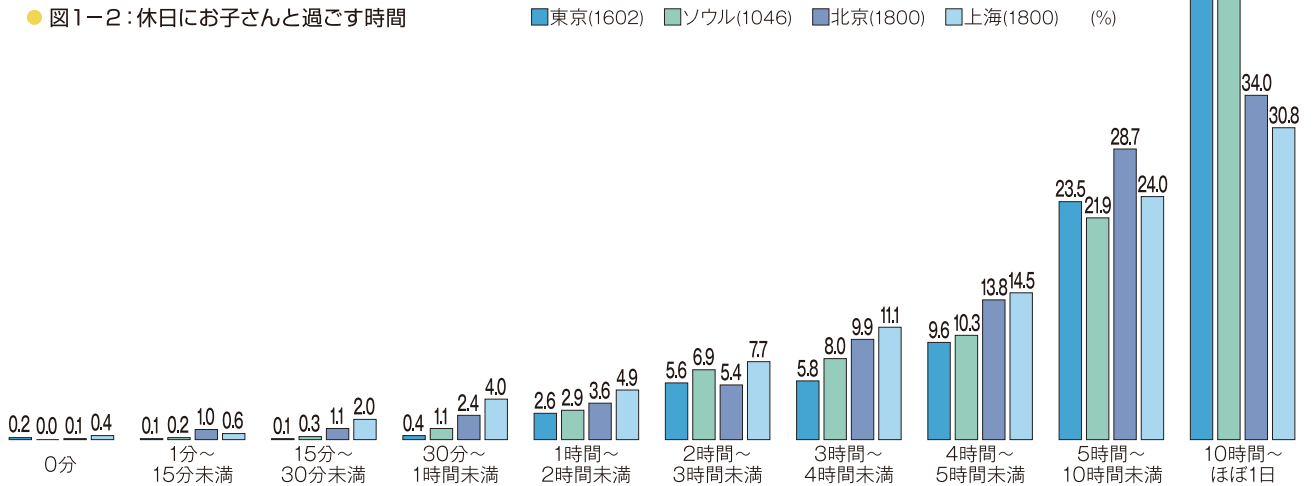
父親が平日に子どもと過ごす時間は、東京・ソウルで「1～2時間未満」、北京は「3～4時間未満」、上海は「2～3時間未満」が最も多い。休日に過ごす時間は、どの都市も「10時間～ほぼ1日」の割合が多いが、東京は52.2%と4都市の中で最も多い。

Q あなたは、(今回対象の) お子さんとどのくらい一緒に過ごしていますか。平日と休日についておよその平均時間をお答えください。

● 図1-1：平日にお子さんと過ごす時間



● 図1-2：休日にお子さんと過ごす時間



平日と休日に子どもと一緒に過ごす時間を聞いたところ、平日で割合が多かったのは、東京は「30分～1時間未満」(20.0%)、「1時間～2時間未満」(26.5%)、ソウルは「1時間～2時間未満」(29.0%)、「2時間～3時間未満」(25.9%)だった。北京・上海は、東京・ソウルに比べて長い時間を過ごす傾向にあり、2時間以上子どもと過ごす人

は合わせて7割に上る。休日では、東京・ソウルの父親は、約半数が「10時間～ほぼ1日」と回答し、北京・上海は、「3時間～4時間未満」から「10時間～ほぼ1日」に回答が分散している。東京・ソウルの父親は、平日に子どもと一緒に過ごす時間が少ない分、休日に集中して過ごすようにしているようだ。

1 子どもとの関わり

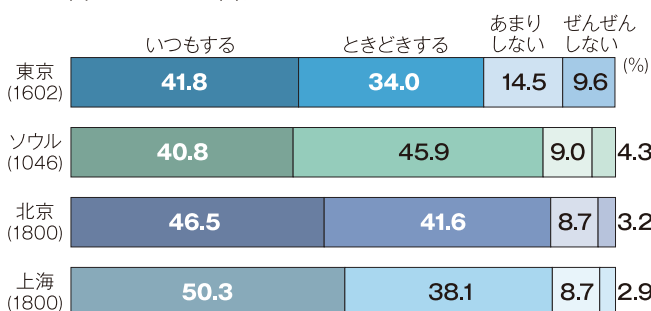
父親が家事・育児を行う頻度は、北京と上海が全般的に高い。東京の父親は「ごみを出す」「お風呂に入れる」「子どもを叱ったり、ほめたりする」が高い。

家事を行う頻度は、北京と上海はどの項目も頻度が高く、ソウル・東京は頻度が低くなる。育児も同様の傾向だが、東京は「お風呂に入れる」「叱ったり、ほめたりする」など、子どもと短い時間に集中して関われる育児への取り組みが多い。

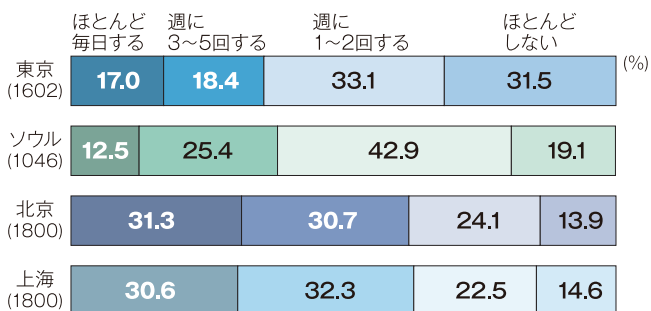
Q あなたは、次のようなことについて、どれくらいしていますか。

家事

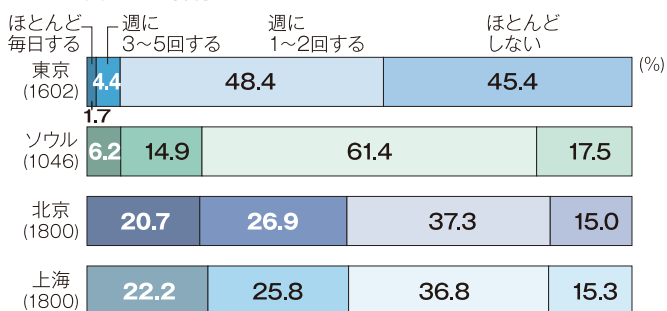
● 図1-3：ごみを出す



● 図1-4：食事の後片付けをする

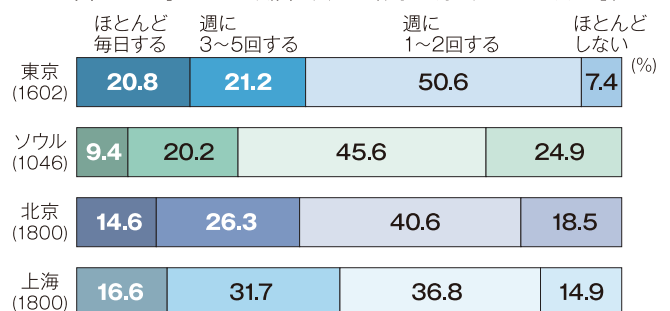


● 図1-5：掃除をする

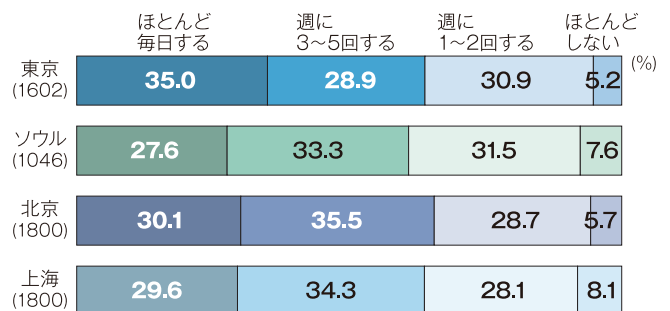


育児

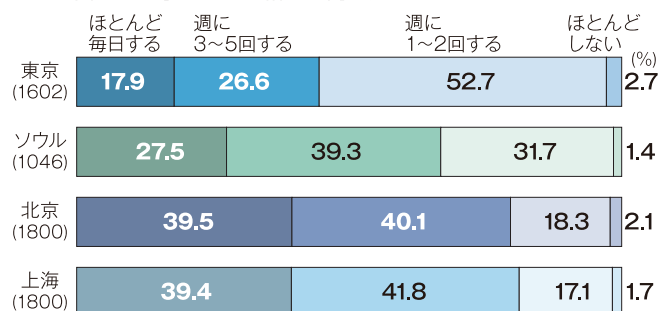
● 図1-6：子どもをお風呂に入れる (北京・上海は「シャワーに入れる」)



● 図1-7：子どもを叱ったり、ほめたりする



● 図1-8：子どもと一緒に室内で遊ぶ



※家事5項目、育児11項目（東京は10項目）についての質問より、6項目を掲示。

父親が家事・育児を行う頻度を4段階で聞いた。家事では、「ほとんど毎日する（いつもする）」と「週3~5回行う（ときどきする）」を合わせると北京・上海ではどの項目も4割を超えるが、東京・ソウルは、全般的に北京・上海と比べて頻度が低い。育児については、東京では、他の都市に比べて、「子どもをお風呂に入れる」「子どもを叱

たり、ほめたりする」など短い時間で関われる項目への取り組みが多く、ここでは載せていないが「寝かしつけ」や「病気のときの面倒」など、子どもの様子を見ながらある程度長い時間を要する育児の頻度が低くなる傾向がみられる。

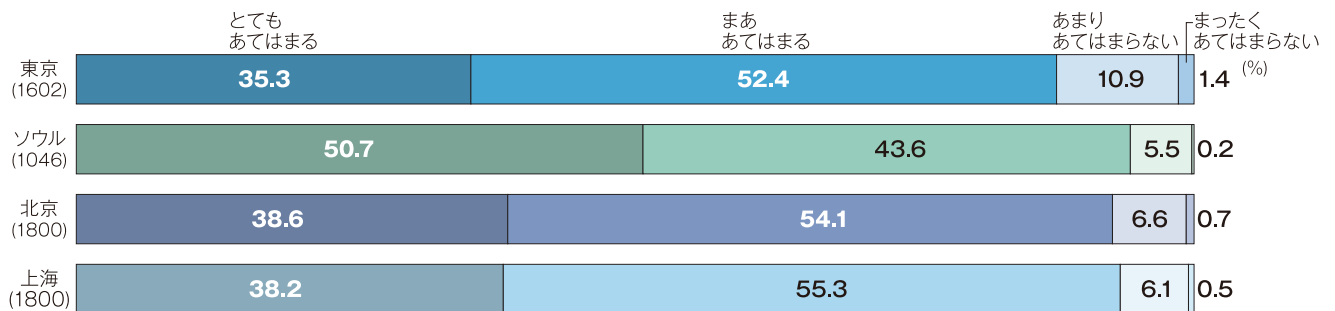
2 家族との関わり

夫婦で子どものことを毎日話す割合は、どの都市も8割以上。夫が妻に悩みを相談する割合は、北京・上海は8割いるが、ソウルは約6割、東京は約4割（「とても+まああてはまる」の割合）。

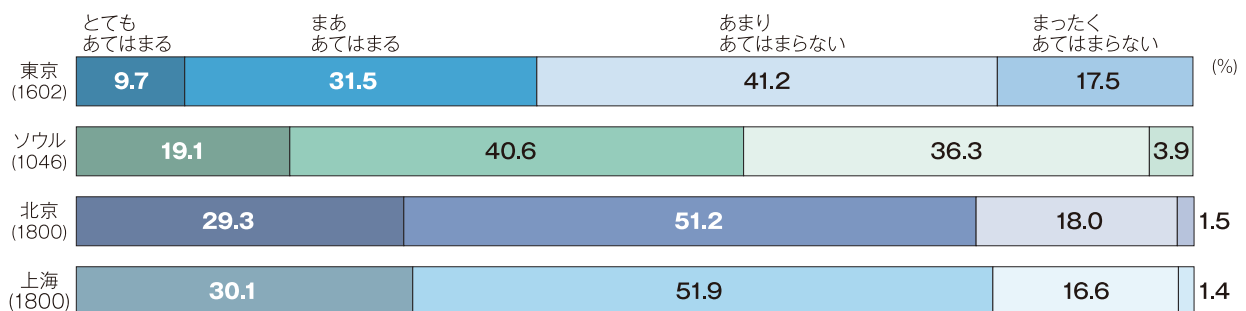
夫が妻の悩みの相談に乗る割合は、北京・上海9割弱、ソウル7割台、東京6割台である。東京の場合、子どものことについて夫婦で毎日話す割合は多いが、自分たちの悩みなどを相談し合う割合は少ない傾向にある。

Q 配偶者との関係についてうかがいます。あてはまるものをお答えください。 ※それぞれひとつずつ

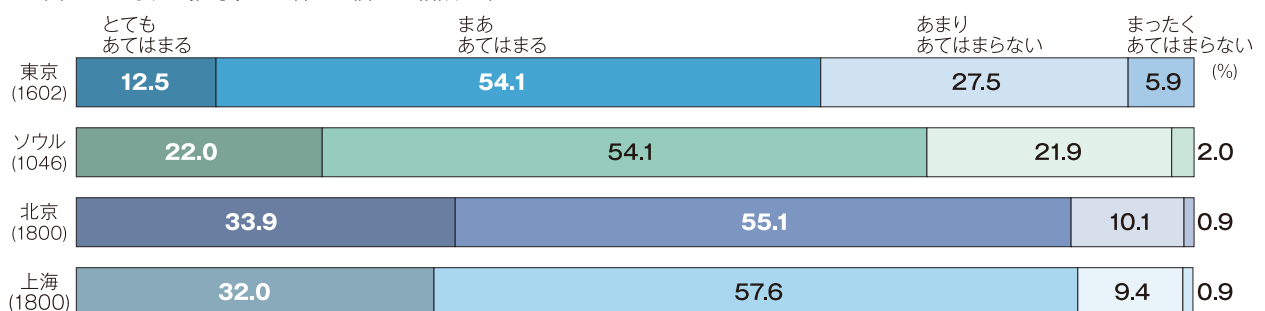
● 図2-1：子どものことについて妻と毎日話している



● 図2-2：自分の仕事・生活上の悩みを妻に相談している



● 図2-3：妻の（仕事）・生活上の悩みの相談に乗っている



配偶者との関係について4段階で聞いた。「子どものことについて妻と毎日話している」割合は、4都市とも多く、東京87.7%、ソウル94.3%、北京92.7%、上海93.5%である（「とても+まああてはまる」の割合）。「自分の仕事・生活上の悩みを妻に相談している」割合は、4都市と

も「妻の（仕事）・生活上の悩みの相談に乗っている」割合より少ないが、特に東京の夫が他の都市に比べて、自分の仕事や生活上の悩みを妻に相談する割合が少ないのが目立つ。

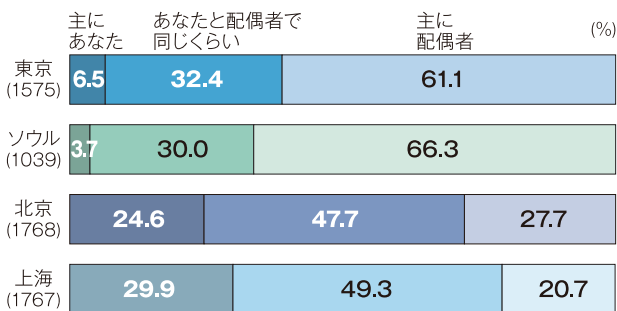
2 家族との関わり

育児グッズ(ベビーカー、絵本など)を選ぶとき、東京・ソウルでは妻が最終的に決める割合が多く、北京・上海では夫と妻が同じくらいに決める割合が多い。

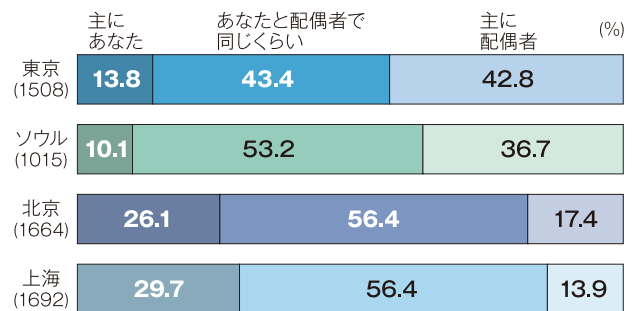
夫が主に「絵本や本」「習い事」を選ぶ割合は、東京・ソウルでは1割に満たないが、北京・上海は2〜3割弱と多い。「習い事」は、北京・上海は、夫と妻が「同じくらい」が他都市と比べてとても多い。

Q 次のことについて、あなたと配偶者ではどちらが最終的に決めていますか。 ※「該当しない」は除く。

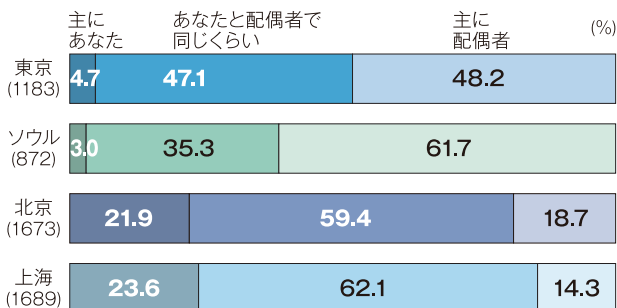
● 図2-4: 絵本や本を選ぶ



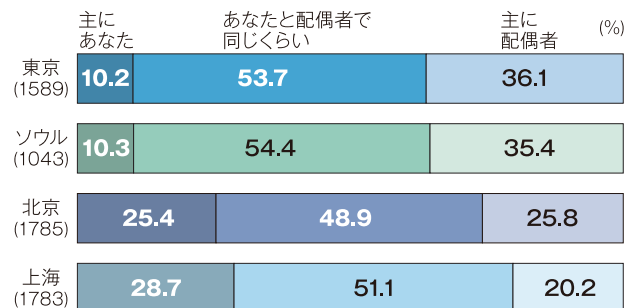
● 図2-7: ベビーカーを選ぶ



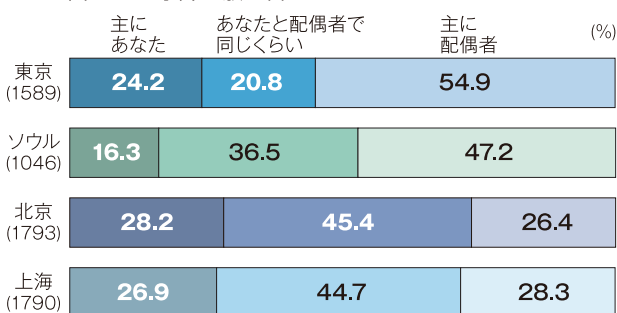
● 図2-5: 習い事を選ぶ



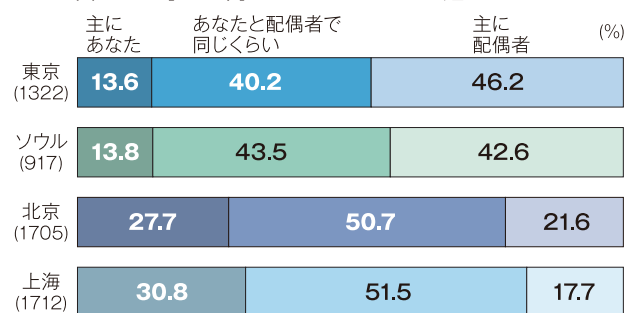
● 図2-8: おもちゃを選ぶ



● 図2-6: 家計全般の管理



● 図2-9: 子ども向けのビデオ・DVDを選ぶ



※15項目についての質問より、6項目を掲示。

家計全般の管理の最終決定権は、東京・ソウルは4〜5割が妻(「主に配偶者」)、北京・上海は4割以上が「自分と配偶者で同じくらい」である。特に、東京とソウルでは「絵本や本」「習い事」は妻が決めることが多く、東京でそれぞれ61.1%、48.2%、ソウルで66.3%、61.7%であ

る。一方、どの都市も「ベビーカー」「おもちゃ」「子ども向けのビデオ・DVD」を選ぶときは「自分と配偶者が同じくらい」が約4〜5割、夫(「主に自分」)が決める割合は、東京・ソウルは約1割と少し出番が増える。北京・上海は2〜3割と、他の項目と同傾向である。

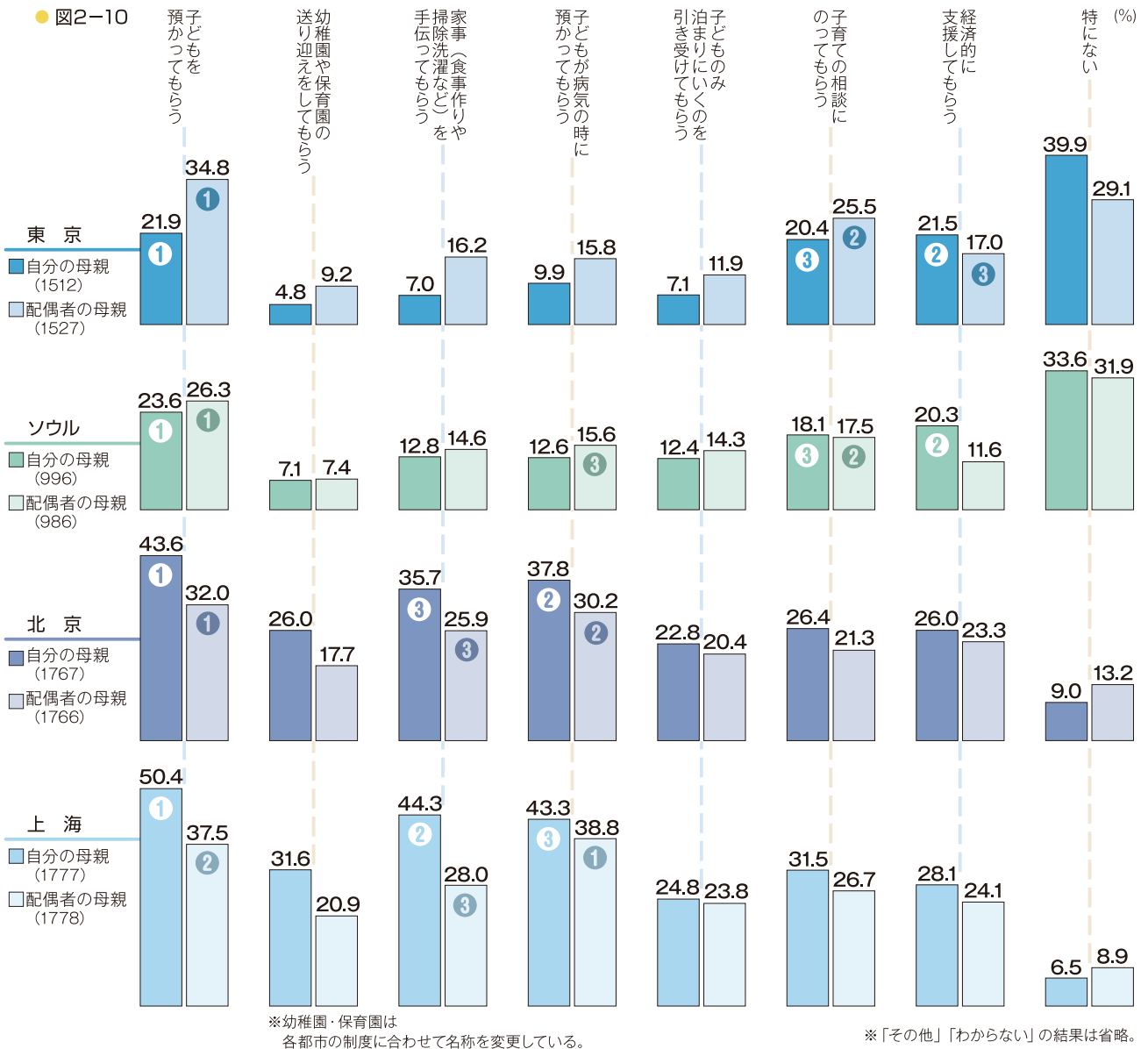
2 家族との関わり

夫・妻の母親による子育てや家事の手助けでは、「子どもを預かってもらう」割合がいずれの都市でも高い。

東京では「子どもを預かってもらう」ことが突出しており、妻の母親で34.8%である。北京・上海では、幼稚園・保育施設への送り迎えや家事の手伝い等、多くの面で夫・妻双方の母親から手助けを受けている様子が見える。

Q あなたと配偶者の親御さんには、子育てや家事に関して、どの程度手助けをしてもらっていますか。

※母親がいない人は除く。 ※複数回答



夫・妻の母親から、どのような子育てや家事の手助けを受けているか、複数回答で聞いた。「子どもを預かってもらう」が最も多く、東京34.8%、ソウル26.3%（以上妻の母親）、北京43.6%、上海50.4%（以上夫の母親）である。東京では、次いで「子育ての相談にのってもらう」（妻の母親：25.5%）である。北京・上海では、幼稚園・保育施設の送り迎えや家事の手伝い、子どもが病気の時に預かってもらう等、夫・妻それぞれの母親から多くの面で手助

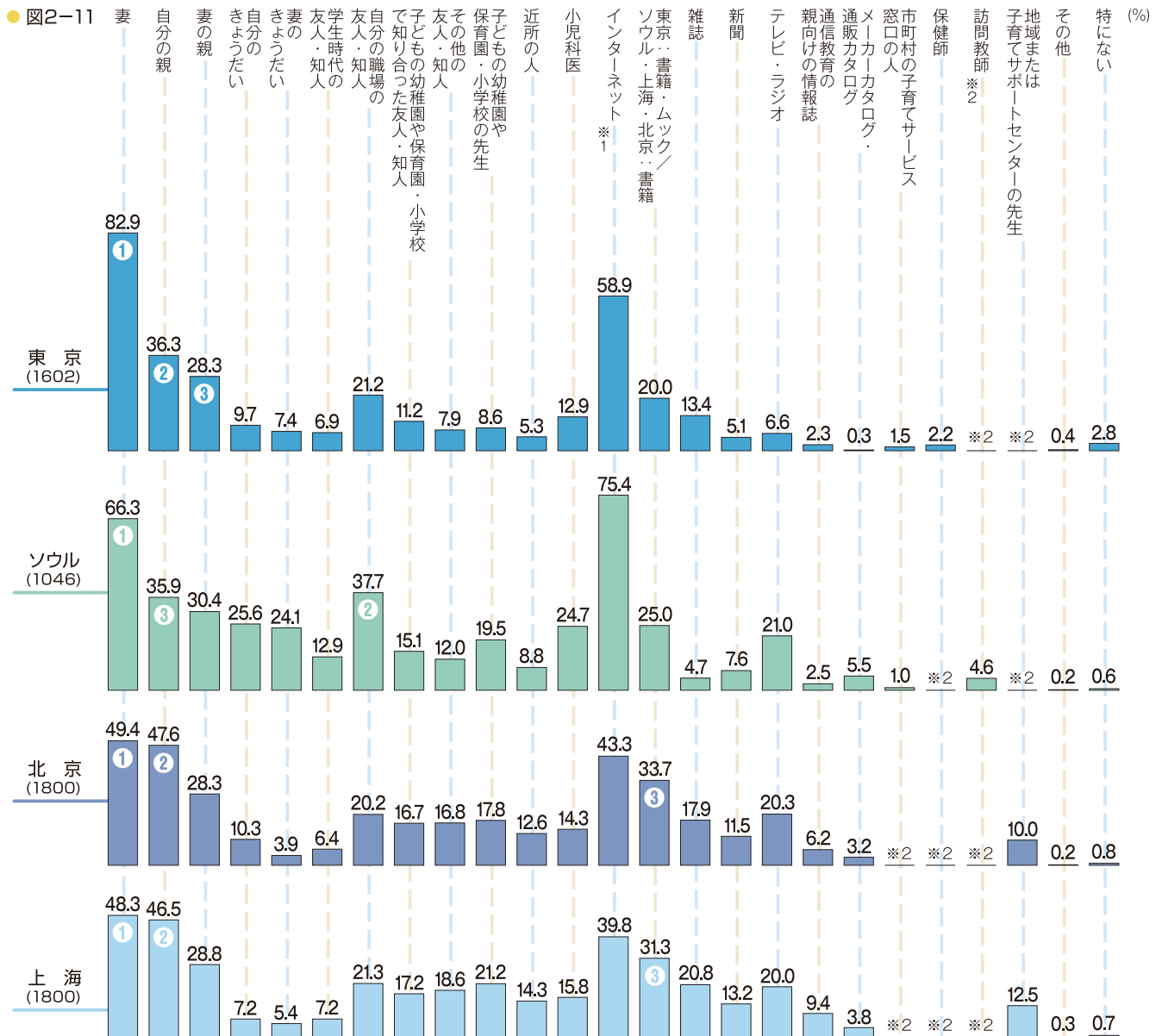
けを受けている。特に北京・上海は、東京・ソウルに比べて自分の親との同居率が高いからか（東京・ソウルは1割以下、北京・上海は夫の母親は3割割）、子育てや家事の手助けを受けやすい環境にあるようだ。東京では、夫よりも妻の母親に手助けを受ける傾向があり、北京・上海では夫の母親により多く手助けを受ける傾向にある。ソウルは、夫・妻の母親に同程度手助けを受けているが、手助けを受ける状況は4都市の中で低い傾向にある。

2 家族との関わり

東京の父親が子育て情報を得たいときに頼っているのは、「妻」が突出。ソウル・北京・上海の父親は、東京と比べて多様なルートから情報を得ている。

東京の父親は「妻」82.9%が突出し、ソウル・北京・上海に比べて頼る人やものが少ない。他都市と比べると、ソウルは、「きょうだい」「職場の友人・知人」「小児科医」が多い。北京・上海は、「自分の親」「書籍」が多い。

Q あなたが、普段子育て情報を得たいときに、頼っている人(もの)はどれですか。 ※5つまで



※1 インターネット調査であるため、「インターネット」の数値は参考。

※2 「市町村の子育てサービス」は東京・ソウルのみ、「保健師」は東京のみ、「訪問教師（「学習誌」などで家庭を訪問してくれる専門講師）」はソウルのみ、「地域または子育てサポートセンターの先生」は北京・上海のみの項目。

父親が普段子育て情報を得たいときに頼っている人やものについて、22～23項目(※3)より複数回答で5つまで答えてもらった。東京は、「妻」82.9%に集中し、他に2割以上だったのは5項目と他の都市に比べて少ない。他の都市と比べて、ソウルは、「妻」に加え、「きょうだい(自分のきょうだい

い、妻のきょうだい)」や「職場の友人・知人」「小児科医」など、幅広く頼っている。北京・上海は、「妻」に加え、「自分の親」が4割以上と多く、「書籍」にも頼る割合が高い。(※3 都市により項目数・内容は若干異なる。)

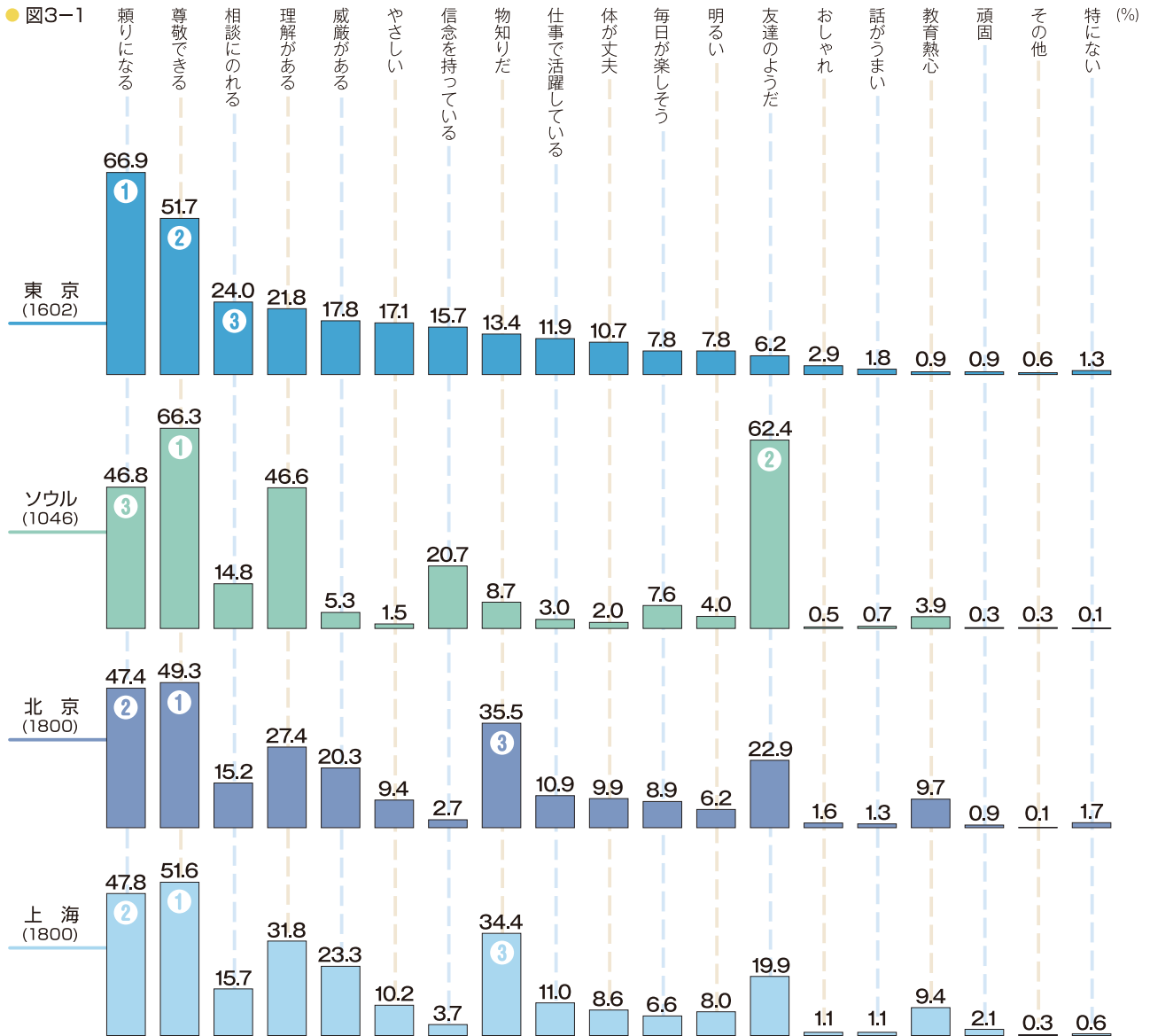
3 父親の育児観

理想的な父親イメージの第1位は、東京は「頼りになる」、ソウル・北京・上海は「尊敬できる」。

「頼りになる」「尊敬できる」ともに、どの都市でも選択される割合が高く、4割以上である。都市ごとに見ると、東京では「相談にのれる」、ソウルでは「友達のような」「理解がある」、北京・上海では「物知りだ」「理解がある」が高くなっている。

Q あなたの考える「理想的な父親」のイメージを以下の中から選んでください。

※3つまで



※東京の降順

理想の父親像について聞いた(19項目より3つまで選択)。第1位は、東京では「頼りになる」(66.9%)、ソウル・北京・上海では「尊敬できる」(66.3%、49.3%、51.6%)である。都市ごとに見ると、東京では「頼りになる」「尊敬できる」(51.7%)が突出して高く、「相談にのれる」(24.0%)、「理解がある」(21.8%)が続く。ソウルでは、「尊敬できる」の

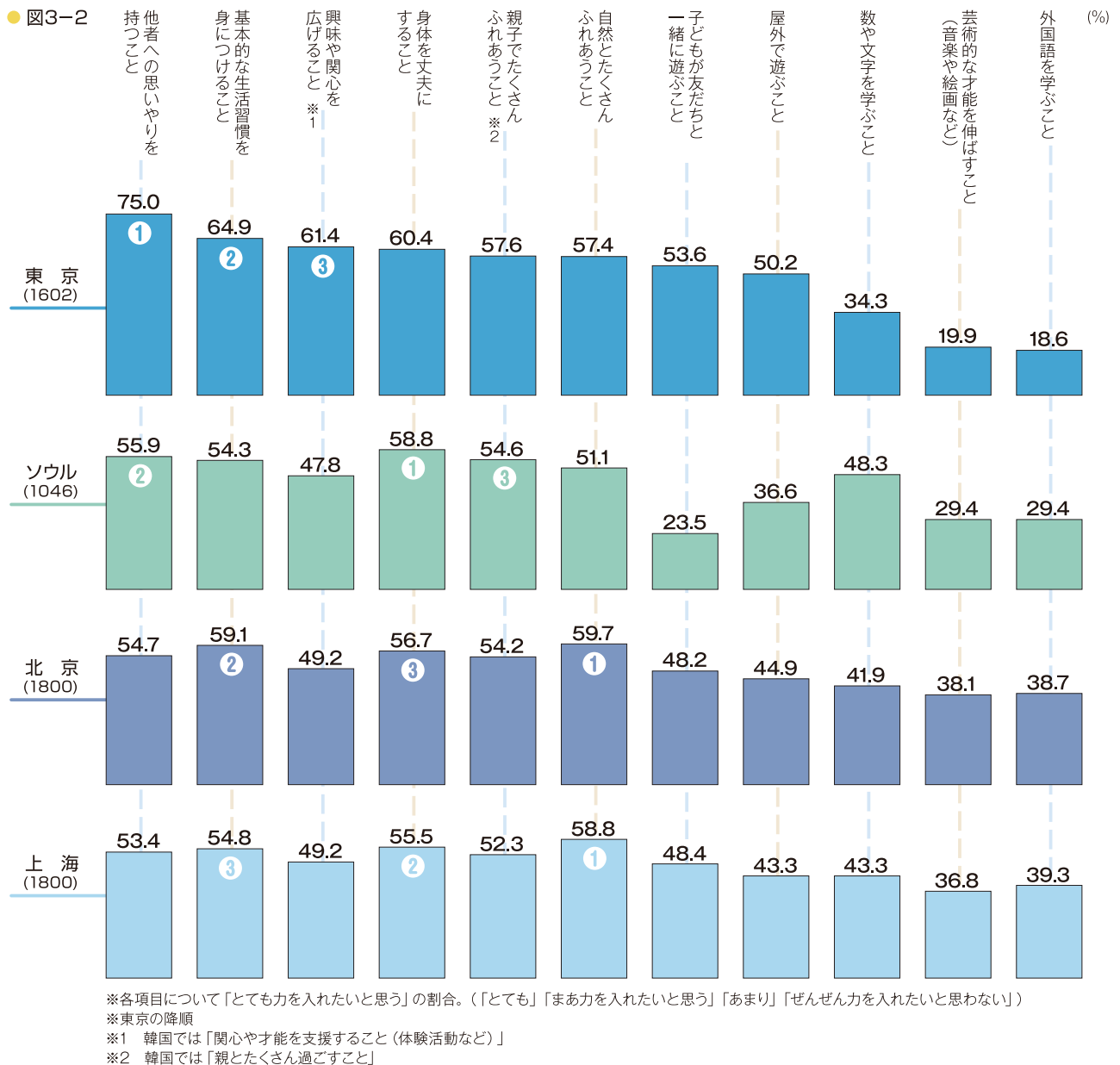
次に「友達のような」(62.4%)が高く、「頼りになる」(46.8%)、「理解がある」(46.6%)が続く。北京・上海は「尊敬できる」の次に「頼りになる」(47.4%、47.8%)、「物知りだ」(35.5%、34.4%)、「理解がある」(27.4%、31.8%)となっている。

3 父親の育児観

東京は「他者への思いやりを持つこと」「興味や関心を広げること」が他の都市よりも特に高い。東京以外では「外国語を学ぶこと」「数や文字を学ぶこと」も多く選択されている。

4都市共通して高いのは「他者への思いやりを持つこと」「基本的な生活習慣を身につけること」「身体を丈夫にすること」「親子でたくさんふれあうこと」である。

Q あなたは、どのようなことに力を入れて、お子さんを育てたいと思いますか。



どのようなことに力を入れて子どもを育てたいか4段階で聞いた。いずれの都市でも「とても力を入れたいと思う」で5割以上選択されているのは、「他者への思いやりを持つこと」「基本的な生活習慣を身につけること」「身体を丈夫にすること」「親子でたくさんふれあうこと」「自然とたくさんふれあ

うこと」である。東京では「他者への思いやりを持つこと」(75.0%)、「基本的な生活習慣を身につけること」(64.9%)、「興味や関心を広げること」(61.4%)の順に高い。また、「数や文字を学ぶこと」(34.3%)、「外国語を学ぶこと」(18.6%)は、他の都市よりも選択する割合が低い傾向にある。

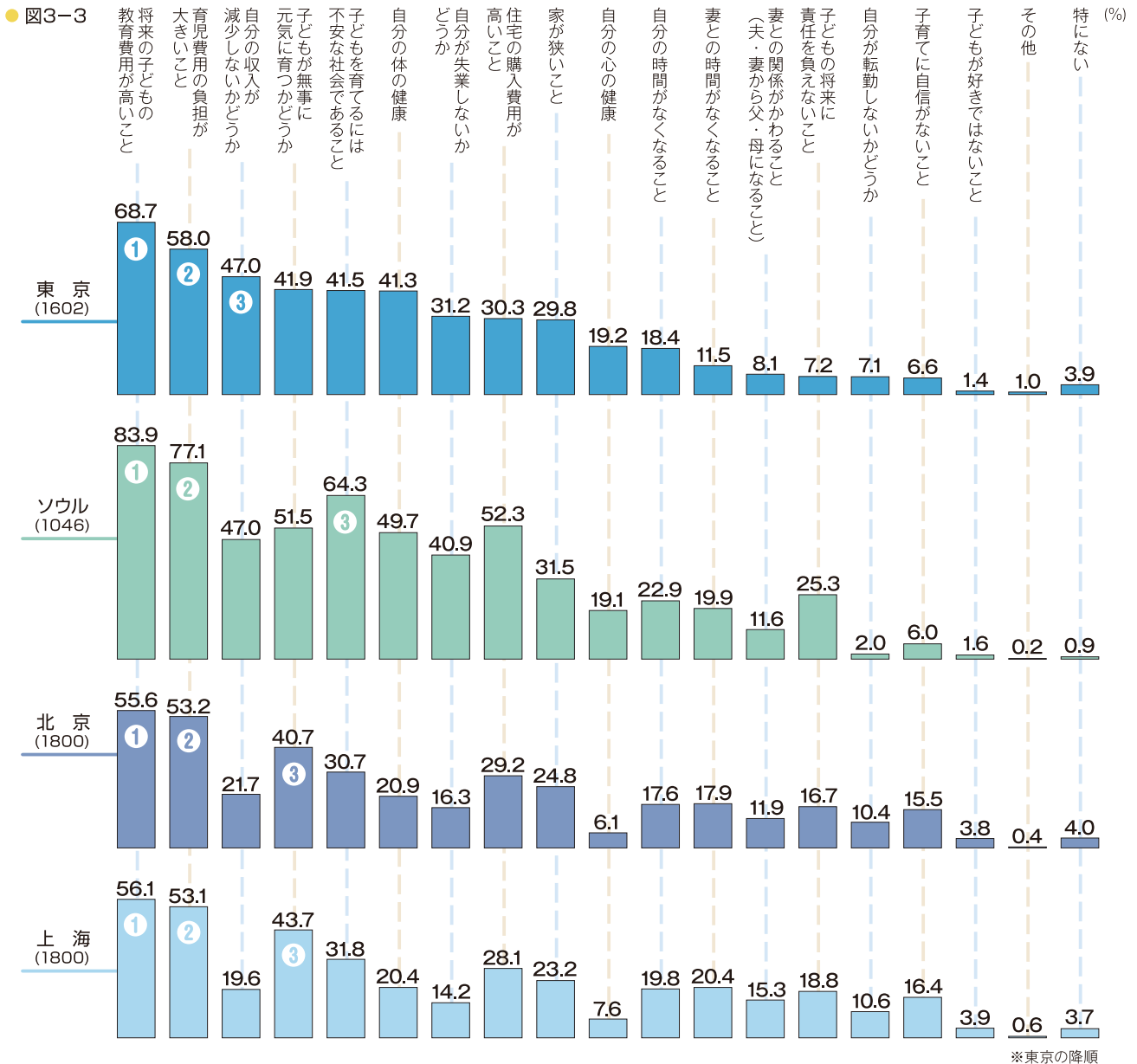
3 父親の育児観

父親として今後不安なことは、「将来の子どもの教育費用が高いこと」「育児費用の負担が大きいこと」という経済的なことで、いずれの都市でも5割以上。

東京・ソウルでは、「自分の収入が減少しないかどうか」「子どもを育てるには不安な社会であること」「自分の体の健康」も多く選択されている。

Q 父親として、今後不安なことはありますか。

※複数回答



父親として今後不安なことについて、19項目の中から複数回答で聞いた。4都市すべてで5割以上選択された項目は、「将来の子どもの教育費用が高いこと」「育児費用の負担が大きいこと」であり、いずれの都市でも育児・教育費用の負担感が大きい状況がうかがえる。特にソウルはそ

の傾向が強かった。各都市で3位にきているのは、東京が「自分の収入が減少しないかどうか」(47.0%)、ソウルでは「子どもを育てるには不安な社会であること」(64.3%)、北京・上海では「子どもが無事に元気に育つかどうか」(40.7%、43.7%)である。

4 ワークライフバランス

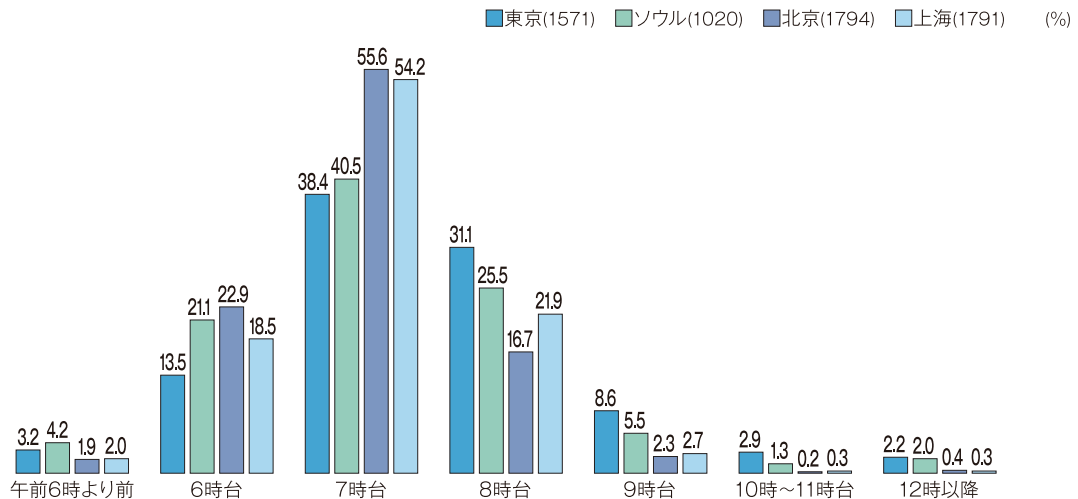
平日の帰宅時間は、東京の父親が最も遅く帰る割合が高い。

東京の父親は20時台の帰宅が最も多い。

ソウルの父親は19時台が最も多く、北京・上海の父親は、7割が17時～18時台に帰宅。

Q あなたは平均して何時ごろ仕事に出かけることが多いですか。
(在宅で仕事をしている人は仕事を始める時間をお答えください。)

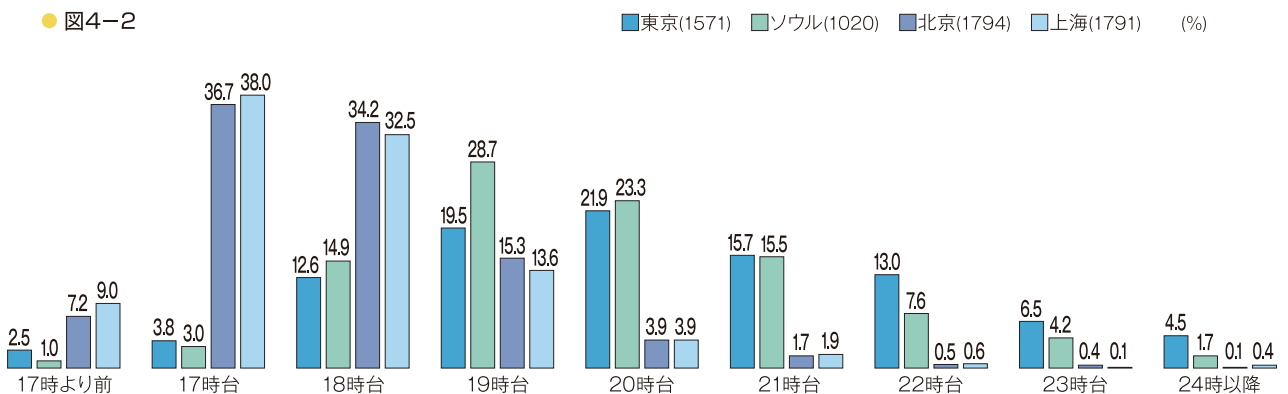
● 図4-1



※「無職」「その他」の回答者は除く。

Q あなたは平均して何時ごろ仕事から帰宅することが多いですか。
(在宅で仕事をしている人は仕事が終わる時間をお答えください。)

● 図4-2



※「無職」「その他」の回答者は除く。

父親の出勤時間について見ると、どの都市についても「7時台」に仕事に出かける割合が最も高い。特に、北京・上海は、7時台までに仕事に出かける割合が合わせて7～8割に上り、東京・ソウルの父親に比べて早く仕事に出かける傾向がある。帰宅時間は、北京・上海は17時台、18時台に集中している（17時台：北京36.7%、上海38.0%、

18時台：北京34.2%、上海32.5%）。ソウルは「19時台」（28.7%）、東京は「20時台」（21.9%）に帰宅する割合が最も高い。子どもがそろそろ就寝するであろう21時以降に帰宅する割合は、北京・上海は3%以下であるが、東京は39.7%、ソウルは29.0%である。

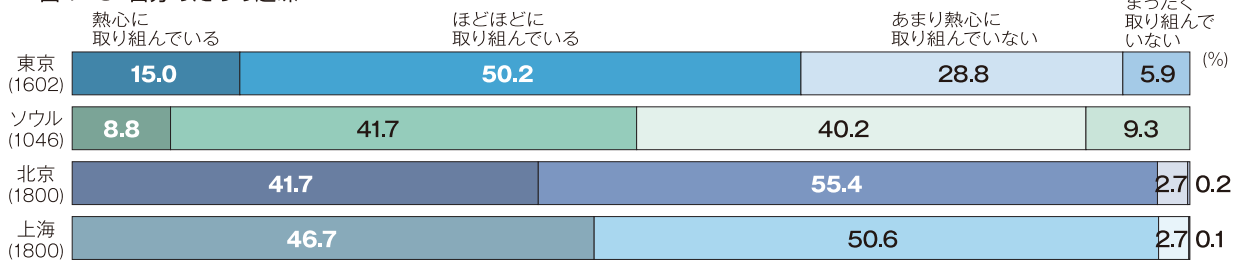
自分のための趣味や、子どもと一緒にの趣味に熱心に取り組んでいるのは、北京・上海の父親が多い。

自分のための趣味に「熱心に取り組んでいる」のは、北京・上海の父親は4割強いるが、東京は15.0%、ソウルは8.8%と少ない。子どもと一緒にの趣味についても同様の傾向。地域での活動や資格のための勉強については、東京とソウルの父親は熱心に取り組む割合が1割にも満たない。

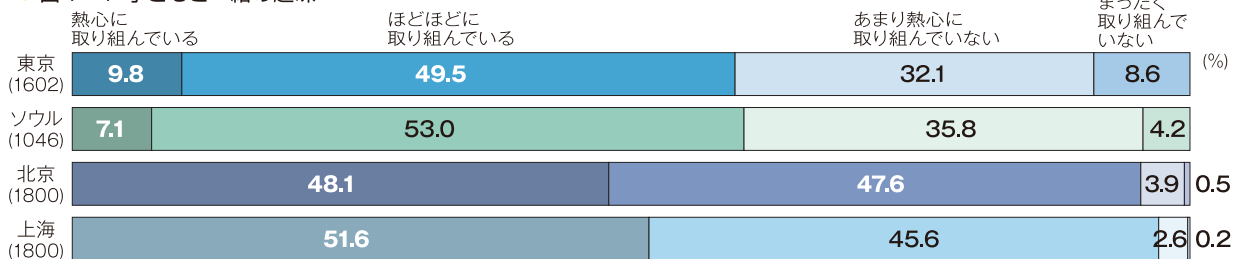
Q あなたは以下の活動をしていますか。

※それぞれひとつずつ

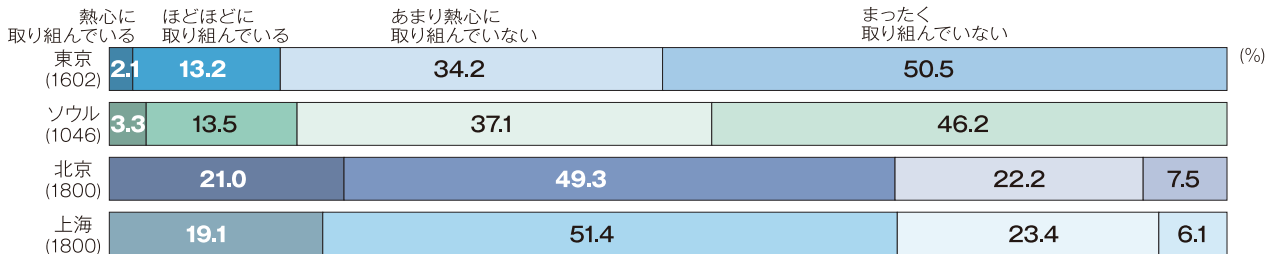
● 図4-3：自分のための趣味



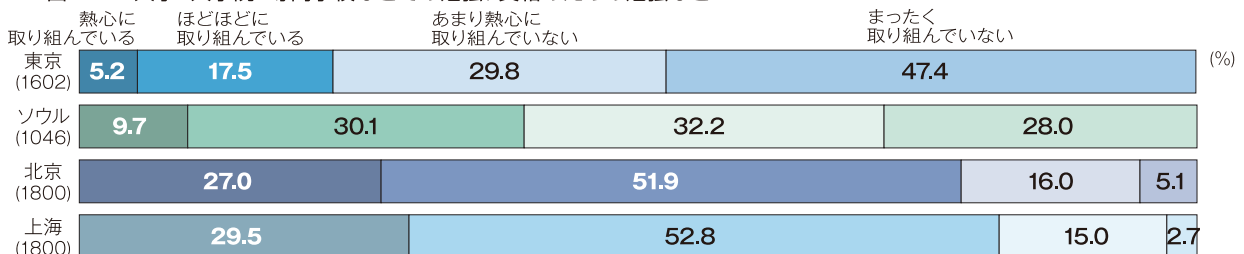
● 図4-4：子どもと一緒にの趣味



● 図4-5：自治活動（町内会、管理組合等）や地域の行事、ボランティアなど



● 図4-6：大学・大学院・専門学校などでの勉強、資格のための勉強など



※6項目の質問より、4項目を掲示。

趣味や勉強、地域活動などの取り組み実態について比較すると、「熱心に取り組んでいる」割合は、北京・上海の父親が、東京・ソウルの父親に比べて顕著に高い。東京の父親が熱心に取り組む割合が最も高い「自分のための趣味」でも、東京15.0%、ソウル8.8%に対して、北京41.7%、上海46.7%である。「子どもと一緒にの趣味」に

ついては、東京・ソウルと北京・上海の差は更に開く。「大学・大学院・専門学校などでの勉強、資格のための勉強など」は、東京の父親が最も低く、5.2%に対し、ソウルは若干高く9.7%であるが、北京は27.0%、上海は29.5%と、北京・上海の父親は4人に1人以上が勉強に熱心に取り組んでいる。

4 ワークライフバランス

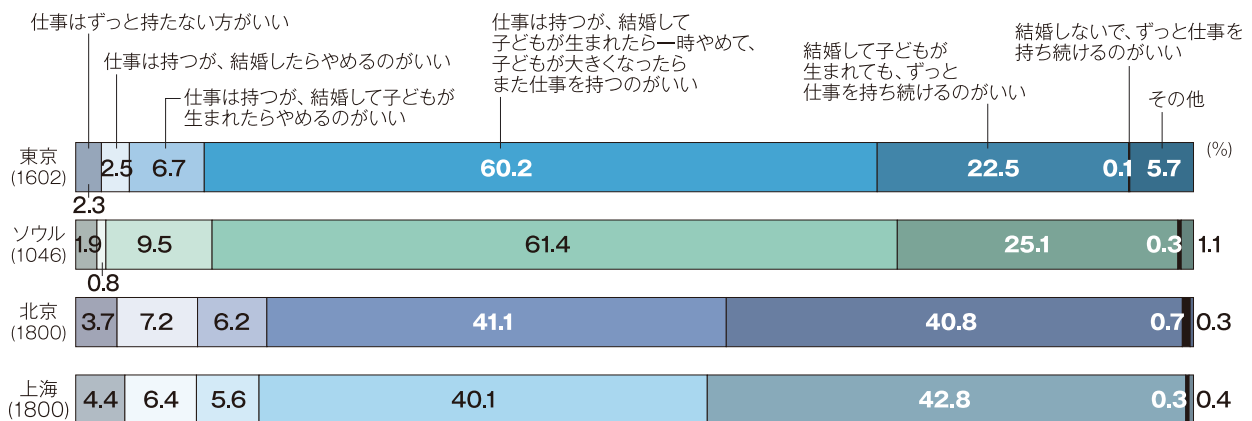
女性と仕事についての考え方は、東京とソウルの父親は「出産で一時離職し、子どもが大きくなったら再就職」を支持する割合が6割強で最も高い。

北京・上海の父親は、「一時離職、再就職」と「出産しても就業を継続する」考え方を同程度に支持している（それぞれ、約4割）。

Q あなたは女性と仕事についてどうお考えですか。あてはまるものをお選びください。

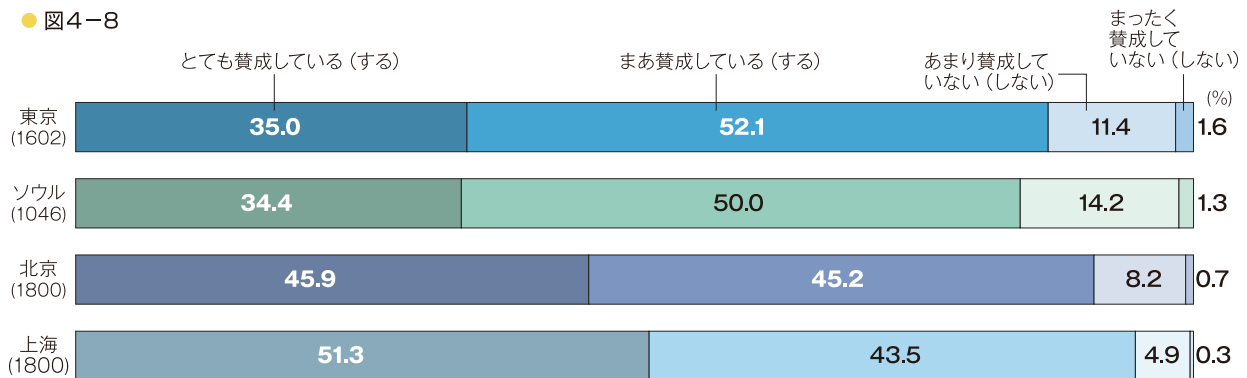
● 図4-7

※ひとつだけ



Q あなたは配偶者が仕事を持つことにどの程度賛成していますか（しますか）。

● 図4-8



女性と仕事について、「出産で仕事を一時やめ、子どもが大きくなったらまた仕事を持つ」という考え方は、東京とソウルの父親が最も多く支持しており、東京は60.2%、ソウルは61.4%である。北京と上海の父親は、この「一時離職、再就職」という考え方と、「結婚して子どもが生まれても、ずっと仕事を持ち続けるのがいい」という考え方を

と同程度、それぞれ4割強が支持している。実際に自分の妻が仕事を持つことについては（図4-5）、東京は87.1%（「とても」＋「まあ賛成している」）、ソウルは84.4%、北京は91.1%、上海は94.8%と高い割合で賛成しているが、本調査のサンプルで共働き率が最も高く9割以上を占める上海の父親が、最も賛成する割合も高い。

調査全体を振り返って

社会をあげたワークライフバランスの取り組みを

「男は仕事。父親はいざという時が出番」と言って済ましていたかつての時代と異なり、昨今の東京の父親の心配りは実に様変わりです。仕事に追われて帰宅が遅くなる平日の分を取り返そうと、休みの日は育児に励んでいます。また子どもには他者への思いやりをもち、視野の広い人間になって欲しいと願う心優しい父親の姿が本調査から浮き彫

りになっています。涙ぐましい努力ですが、父親ひとりの力には限界もあります。仕事も育児もバランスよくこなすことができるよう働き方を見直すなど、社会をあげたワーク・ライフ・バランスの取り組みが求められています。ゆとりある社会が実現すれば、子どもとの関係と共に妻に対しても確かな絆を紡ぐ夫像が期待できるでしょう。



大日向 雅美先生

(恵泉女学園大学大学院教授)

4都市比較から見えてくるもの

ここからはアジア各都市のパパたちの子育てへの熱意をひしひしと感じます。4都市を比較する興味深いデータからは、たとえば、ママが仕事をもち、共働きが多い都市では、パパの子育てへの関わり方、家事などへの参画もより強くなる傾向がよみとれます。父親の子育て参加の度合いについては、中国の2都市（北京と上海）に比べて、東京、そしてソウルは、厳しい状況にある傾向が見えてきました。ともあれ、東京のパパたちにも、子どもと共に過ごす時間ももっとあれば、どんなによいでしょう。帰宅時間が遅く疲れているけれど、東京パパは健闘しています。心からのエールを送るとともに、長い目でこの現状を変えていく粘り強いアクションが必要だと改めて痛感します。



一見 真理子先生

(国立教育政策研究所総括研究官)

ベネッセ次世代育成研究所では、2005年と2009年に、首都圏の乳幼児の父親を対象にした調査を行い、父親の子育ての意識・実態をとらえてきました。この度、東アジアの4都市の父親を比較調査することで、国内調査だけでは見えなかった東京の父親の実態が浮き彫りになりました。

調査結果全体を俯瞰すると、平日の帰宅時間の遅い東京・ソウルの父親と、約7割が17時～18時台に帰宅する北京・上海の父親では、家事・育児への取り組み頻度や、平日子どもと一緒に過ごす時間に差がみられ、東京・ソウルの父親の子育ては厳しい状況にあります。

日本のお父さん、子育てを学び、その力を磨いて、もっと親業に参加しよう。

女性が母親になる「マタレッセンス(成母期)」の在り方より、今や男性が父親になる「パタレッセンス(成父期)」の在り方を考えなければならぬと、このレポートは教えている。

男性は仕事、女性は家事・子育てという分業は、遠い昔の狩猟・採集時代、それに続く農耕時代の名残。科学技術が進歩したお蔭で豊かになった現代社会では、男女は平等、女性も仕事を、男性も子育てや家事をやる時代。そうしなければ、今の豊かさは維持できないし、子育てに必要な温かい家庭もつくりえない。

そのためにも、日本のお父さんが、仕事からわが家に、もう少し早く帰り、もっと子育てや家事に参加しやすい社会体制が必要ではないだろうか。



小林 登先生

(ベネッセ次世代育成研究所所長・
東京大学名誉教授・国立小児病院名誉院長)

しかし、東京の父親は、休日、子どもと一緒に過ごす時間は最も長く、育児については「子どもをお風呂に入れる」、「子どもを叱ったり、ほめたりする」など、限られた時間で出来ることを積極的に取り組んでいます。

4都市で共通だったのは、父親としての今後の不安で、子どもの将来の教育費用と育児費用の負担が第一位・第二位でした。

調査結果から、東京の父親が、もっと早く帰宅でき、子どもや妻と共に過ごす時間がもっと持てるような社会への変革、育児や教育費用の不安を軽減できるような施策が望まれているといえるでしょう。